# 花がつみ

第 90 号
福島県退職公務員連盟
郡　山　支　部
富　永　孝　夫
印刷　㈲上田印刷
TEL　922－4342

## もみじの色

顧問　白鳥　修
・元退職公務員連盟
郡山支部長

三十五才前後の思い出である。父に請われ、山から尺余の松の木を伐木することに協力を頼まれた。

炭焼きの木を切ることには馴れていたが、尺余の太さを切り倒すのは、始めての経験。心して一時間程で倒すことができた。父が休んでいる合間に、小生は近くに紅葉した「もみじ」の木をほりおこした。松の木を切る前に、目を着けていた。

自宅に持ち帰り植樹をして二～三年が過ぎたが、葉は茂るが色は紅くならなかった。

この頃、父が秋祭りの餅を持って来宅し、庭をくまなく見て廻った。

小生が「あの　もみじね。」と言うと、はね返るように「色が紅くならないんだべ。」と言われた。

父は、酒をのみながら「あのナァ山にあるもの、そっくり気候の違う所に持ってきても、それはダメだよ。」と言った。つまるところ、自然にできた色を場所をかえても同じ色は出ないということだった。このことは、うすうすわかっていたが、こうも現実の姿で現れるとは――。がっかり。

もう一つ。同じことだが、いちじくの実のことである。

父は、いちじくが大好物で、拙宅の「いちじく」の実るのを待ちこがれていた。反対に小生は嫌いで、食べたことはない。おまけに蜂がへばりついているので近づきたくない。

父は、拙宅の「いちじく」を分けつし、自宅で育て食べることを考えた。

二年位したら父が言うには、「花がいっぱい咲いたから、今年はいっぱい食べられるよ。」と言って喜んでいたが、実がつかなくて終わってしまったとのこと。相当がっかりして、以来いちじくの手入れはしなかった。

これも、もみじと同じようにその土地の気温や寒さが影響しているようだ。

この経験から果物等の苗木を購入する時、花と実のつき方をよく見てから購入し、管理するように心がけている。しかしこのことはすぐできるようで、日常の管理も容易でないことも経験した。

自宅の「もみじ」の葉は見にくい色であるが、生き生きと「もみじ」の色をかもし出している。

## 受章　受賞　おめでとうございます

◇高齢者叙勲
☆瑞宝双光章　柳沼　正美 様（13方部・桑野）
☆瑞宝双光章　横田亀久恵 様（51方部・大槻町）
☆瑞宝双光章　山内　力雄 様（118方部・安原町）
☆瑞宝双光章　桑名　孝雄 様（91方部・日和田町）

◇郡山市教育功労者表彰
【学校教育】　立石ひとみ 様（6方部・神明町）
【学校教育】　小林　伸行 様（34方部・菜根）
【学校教育】　渡辺　勲 様（120方部・須賀川市）
【体育】　吉成　賢 様（99方部・富久山町）

◇文化・スポーツ知事感謝状
【スポーツ部門】　中東　稔 様（91方部・日和田町）

真実一路

真実一路の
旅なれど、
真実、鈴ふり、
思い出す。

〈白秋「巡礼」〉



## 現職の賛助会員から

### ウィズコロナの中で

郡山市小学校長会
会長　柳沼　啓之
（橘小学校長）

学校も社会もコロナウイルスに翻弄され2年以上経過してしまいました。しかし最近、社会全体がコロナとのつきあい方を模索し、ウィズコロナの考えの元、日常を取り戻す方向に動き出したように感じられます。

学校現場でも、運動会、修学旅行、宿泊学習、授業参観、学習発表会…など、子ども達が楽しみにしている行事は、しっかりとした感染対策を行った上で、時間、人数、場所など工夫をしながら実施しています。

また、一人一台のタブレットの整備が急速に進み、授業の中で、家庭の中で、学習のツールとして当たり前に活用されるようになってきております。

「子ども達の学習の歩みを止めない」「すべては子どもたちのために」を胸に、学校が果たすべき責任を自覚し、精一杯活動を行っていきたいと考えています。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### コロナ禍での日常

郡山市中学校長会
会長　芳賀　俊幸
（郡山第六中学校長）

新型コロナウイルス感染防止のため、制約や制限のある生活が3年以上続いています。マスクの着脱や常時換気、三密回避、黙食や手洗いの励行などを指導しつつ、可能な限りの教育活動を進めています。

学校規模により、文化祭の学年毎開催、修学旅行の行き先や期日、泊数の変更、また出席停止中のタブレットによる授業配信などを行い、子どもたちの活動を極力止めない工夫を継続しているところです。

教育研修や種々の会合などは、対面と映像配信を併用して効果を得られるよう皆で努めています。（皆が集まることが大切と思います。）

三年生の進路決定や一・二年生の学習活動等に支障が生じないよう保護者や退職公務員連盟の先輩方のご支援ご協力をいただき、この未曾有の難局を乗り切っていきたいと考えています。

### コロナ禍を越えて

福島県高等学校長協会
県南支部長
鈴木　芳人
（安積高等学校長）

会員の皆様には、本県教育に御支援を賜り、感謝申し上げます。

コロナウイルスと闘いながらの教育活動も、三年目となりました。今年度の三年生諸君は、入学直後の臨時休校に始まり、高校生活の全てをコロナによる制限の下で過ごすことになりました。しかし、学業は勿論、学校行事に部活動にと、自ら対策をして充実を図っている姿を見るにつけ、頭の下がる思いがいたします。

今、学校教育は、ＩＣＴ化を始めとして、日進月歩の状況にあります。教職員は子どもたちの安全・安心を第一に意識しながら、日々尽力しております。皆様には今後とも御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 賛助会員の皆様へ

令和４年度も退職公務員連盟郡山支部の賛助会員として、多数の現職の方々にご加入いただきました。誠にありがとうございました。令和４年度の加入状況は、次のとおりです。

| | 加入者数 | 賛助会費 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 小　学　校 | 738名 | 143,420円 | 41校 |
| 中　学　校 | 435名 | 85,020円 | 23校 |
| 義務教育学校 | 45名 | 8,780円 | 2校 |
| 県　立　学　校 | 5名 | 890円 | 2校 |
| 計 | 1,223名 | 238,110円 | 68校 |

現職の方々の温かいご理解とご協力に心から感謝申し上げます。皆様から頂く会費は貴重な活動財源として活用させて頂きます。尚、今年度の会費合計額につきましては、現金での振り込みにかかる加算料金を差し引いた金額となっております。

福島県退職公務員連盟は、(財)日本退職公務員連盟に加盟する全国規模の組織で、退職後の生活の安定と充実のため、

- 公務員年金制度の堅持及び充実を要望
- 社会保障制度の充実と負担の軽減を要望
- 地域での社会貢献活動の推進
- 会員相互の親睦活動と福利厚生事業の推進

を指針として活動をしています。現職・退職にかかわらず、公務員の処遇改善に向けて陳情を重ねるなど、鋭意、努力しているところです。

郡山支部においても、「年金を守る」「社会のために貢献する」「声を掛け合って元気に生きる」を目標に活動を重ねております。

退職後は、ぜひ入会され、各種行事や会合に参加していただきますようお願いを申し上げ、報告並びにお礼といたします。ありがとうございました。

# 袋田の滝&紅葉巡りの旅
## ―会員研修旅行報告―

澄みわたる秋空の下、会員28名の参加をいただき、10月26日、退公連郡山支部会員研修旅行（「袋田の滝&周辺紅葉めぐり」）を実施しました。

最初の目的地は、棚倉町にある山本不動尊。きれいに掃き清められた境内に入ると、厳粛な気持ちが自ずと湧き上がってきます。お目当ての奥の院は、百三十段の石段を登り切ったその上にありました。見上げると、圧倒的な迫力で覆いかぶさるように迫る岩壁。そして、そこをくり抜いた中にひっそりとたたずむお堂。無事安泰を願って一同静かに手を合わせました。紅葉には一足早かったようですが、眼下の秋の景色を存分に楽しみました。

次に訪れた地は、茨城県大子町の袋田の滝。駐車場でバスを降り、十五分ほど歩いて展望台に到着。目の前に大きく広がる四段の滝のスケールにはただ圧倒されるばかりでした。さすが日本三名瀑に数えられる絶景でした。

昼食後に向かった先は、大子町の旧上岡小学校でした。明治44年建築の木造平屋建て校舎は、国登録有形文化財となっています。歩くたびにきしむ廊下。廃校当時そのままの掲示物。そして木造の椅子、机。どれも懐かしい記憶を呼び起こすものばかりでした。この校舎が多くのドラマや映画のロケ地となり、今でも保存会を中心とした地域のたくさんの方々に愛され続けていることもうなずけます。

秋の一日、ゆったりとした時の流れを感じながらの楽しい旅となりました。また、コロナ禍ではありましたが、会員相互の親睦を図ることもできました。今回参加を見合わせた皆様も、次回はぜひ参加をご検討いただければありがたいです。（事務局　小林）

## 心洗われた山本不動尊
109方部　渡邉　清司

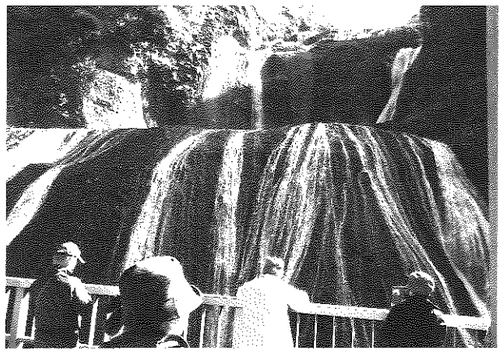
杉並木を通りぬけ、バスは駐車場へ。バスを降りて整備された庭園の石畳を歩く。お堂かなと思われる建物が何棟かあり、「東日本大震災復興祈願」の文字もみえる。あちこち眺めていると、「奥の院に行かれる方はどうぞ」の声。「えっ奥の院？」どこかなと、前方に目をやると、聳え立つ山。朝日に照らされた石段、色づき始めた紅葉と調和して美しい。あそこか。みんなの後をついて手すりを頼りに石段を上る。石の童子が迎えてくれる。上り切ると頭上に迫ってくる巨岩。岩窟に祀られたお不動尊。鰐口を鳴らし無心に手を合わせる。言葉がでない。ただ感動。何千、何万という人がこうして参拝に訪れているのか、自分もその一人。

欲と迷い、煩悩の中で生きている日々、心洗われるひとときとなった。

## 一幅の絵「袋田の滝」
59の1方部　角田　義和

袋田の滝は、20代の頃に2度程訪れたことがある。懐かしさに浸りながらエレベーターで一気に最上の観瀑台に登ると、明るい日の光を浴びて巨大なスクリーンに映し出されたような鮮やかな絶景が広がっていた。

「オー！」と思わず感嘆の声。観瀑台が滝に近いこともあって、大きい！さすが日本三大名瀑。圧倒される迫力！広角に視野一杯に広がる「四度の滝」。滑らかな岩肌を幾筋にも分かれ、滑り落ちるように、あるいは白いしぶきを吹き飛ばすように、幅



〈袋田の滝〉



を変え、勢いを変え、様々な様態で何段にも流れ落ちる様は、澄んだ高い秋空の青を背景に色づき始めた山々の紅葉と相まって正に一幅の絵のようだった。目と心に鮮明に刻まれた3度目の「袋田の滝」となった。企画担当者に心より感謝！

## 上岡小学校を訪ねて
62方部　斎藤　リン

明治十二年に創立され茨城県の小学校校舎として二番目に古い学校です。木造独特の建て方で木のサッシの窓ガラス、天窓。玄関を入りますと年代を経た木肌の匂いがゆかしく温もりが漂っています。教室も長年使い込んだ跡が伺われ、柱、廊下、腰板等良く手入れされ机椅子の木目が浮き出て角が丸くすり減っています。歴代の校長先生方の写真が掲げられております。何百人の小学生が使われ卒業して行かれたでしょう。これからも町の宝、伝統ある学校として地域の方々が先人に習って引き継がれ守られて行くでしょう。感銘致しております。木肌の匂いに私も小学校の頃の母校のおもかげと重ね合わさり名残り惜しくおいとま致しました。有意義な研修旅行でした。企画して下さった事務局の方々のお骨折りに御礼申し上げます。

# ◆女性部◆

## 「お元気ですか」の絵手紙を

8月30日、今年も会員有志の方々に、自宅にて絵手紙を書いて頂き持参しました。集まった作品を鑑賞した後、絵手紙を発送する準備をしました。たくさんの作品をご協力頂きありがとうございました。

会に参加できない先輩の方々と新入会員合わせて38名の会員に9月12日、絵手紙に思いをのせて発送いたしました。その後、礼状やお礼の電話等が寄せられております。

## 念願の「ふれあいコンサート」

「はるかぜ」合唱の発表

令和4年10月7日（金）公会堂にて「ふれあいコンサート」が開催されました。

朝から冷たい雨となり、生憎の天候となりましたが参加者の熱い思いと演奏者の素晴らしい歌声で、感動あふれるコンサートとなりました。一部は合唱クラブ「はるかぜ」の美しいハーモニーをたっぷりと。二部は、世界・日本歌曲アラカルト。原千津子先生、ピアノ川村彰子先生お二人の演奏に、すっかり「オペラ」の世界に酔いしれました。第三部の原先生の指導による「みんなで歌いましょう」コーナーでは、「紅葉（もみじ）」「故郷（ふるさと）」など感情豊かに、そして元気一杯に歌いました。会場がひとつになり笑顔が広がりました。

演奏者のお二人

昨年に続きまして熱いラブコールを受け、今年も原先生にお願いをいたしました。これからも、多くの皆さんに参加して頂ける「ふれあいコンサート」を目指して企画してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。（三瓶）

# ◆福祉部◆

## ★健康教室
### ″スポーツチャンバラ　空手の形の体験″

9月16日（金）に健康教室を開催。講師は中東稔氏です。本会の会員でもある中東氏は道場を開設し地域の青少年育成にも活躍しています。

講義から、子どもの頃よく遊んだチャンバラごっこと小太刀護身道の動きを組み合わせて始められたのがスポーツチャンバラであると知りました。

これは誰でもどこでも安全に気軽に出来るスポーツなので、愛好者が年々増加しています。

実技指導から動きは意外と全身運動になり、身体機能の低下・予防・機能回復に最適と実感しました。

全身の血流を良くし、我々の年代の健康維持・増進に大変有効な有酸素運動ですので、ぜひ日頃から身体を動かす習慣を心掛けると共に、この機会に気軽に出来るスポーツチャンバラを体験してみてはいかがですか。（熊田）

# 生きがいを求めて
## ―わたしの近況・心境―

### ガキ大将に育てられて…

中東　稔（91方部）

かかりつけの床屋さんに「眉間の傷跡は空手ですか」と言われた。

すっかり忘れていたがその時のことを思い出した。小学二年頃、広場で相撲をとっていた。頭を下げて組んでいたが、頭を上げた瞬間、ライナーとなって飛んできた石が当たったのだ。痛っと思って手をやったら血がタラタラと…。向かい側で石をバットで打っていたのだ。近くにいた上級生は私を自分の家につれて行き、傷の手当てをしてくれた。

当時は方部ごとに上級生（言ってみれば良い意味でのガキ大将）を中心に遊んでいた。子供として必要なこと（水泳ぎ、魚とり、スキー、その他何でも…）はすべてガキ大将を中心とした上級生から教わった。ケンカをすれば指導もされた。雪が積もった日は上級生が先頭を歩き、順次下級生へと…。下級生は上級生からいつも温かく見守られて育てられたような気がしてならない。

私は、道場に来ている子供達が空手・スポーツチャンバラを稽古することで精神的なすじがねとなる何かをつかんで欲しいと願っている。

保護者の全面的な協力のもと、子供達の健全育成の一助にでもと考えてガキ大将になっている。

空手・スポーツチャンバラ両方の演武会（言ってみれば学習発表会）終了後　保護者と合同写真

### 退職後、二つのめぐり会い

渡辺　嗣雄（101方部）

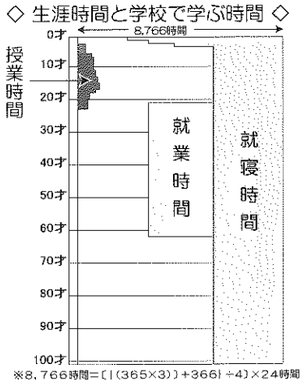
退職後、市教委生涯学習課に再就職をした。

今まで学校教育が全てと思って仕事をしてきたが、その考えを改めなければならなくなった。それは、一つはお茶の水女子大教授　森隆夫編の『生涯教育の理念と方法』の書籍とのめぐり会いである。幼児から高齢者まで、教育（学習）の範疇の多さに驚いた。幼児、児童、生徒、保護者、高齢者に関わる斬新な資料集めに時間を費やした。

もう一つは、全国生涯学習ネットワーク会長　高原北雄（工学博士）の『生涯時間と学校で学ぶ時間』の資料とのめぐり会いである。資料は「学校で学ぶ時間・就寝時間・就業時間・自由時間」の面積グラフである（資料参照）。人生の三分の一は就寝時間で、幼稚園、学校等で学ぶ時間がごく僅かであり、自由時間の多いことに大きなショックを受けた。

資料収集をすることにより自分は今までいかに無知で仕事をしてきたかを反省させられた。デジタル化による多量で速い情報化社会、より多くの視点からより新しいもの、より古いもの、より深いものを求めて自由時間を過ごしていきたい。

◇生涯時間と学校で学ぶ時間◇




※8,766時間＝〔1(365×3))＋366)÷4)×24時間

### 毎日を大切に

村上　貞子（55方部）

昨年の秋、左足の巻き爪が化膿してしまった。さらに、かばって歩いていたためか、ある朝突然、腰と足の痛みで起き上がれなくなってしまった。それからは、家の中も杖なしでは歩けない、炊事はできない、夜痛みで寝る事もできない状態になってしまった。病院で治療を受けるも薬を塗って爪が伸びるのを待つだけという事だった。たかが爪だったのに日常の何でもない事ができなくなりとても不自由な生活に陥ってしまった。でも、花の芽が出て春が訪れるとともに、私にも春が来た。爪が治ってくるに従い、あれ程辛かった足腰の痛みも自然になくなった。

「はるかぜ」コーラスの様子



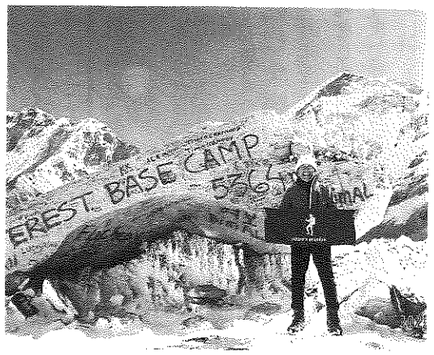
そして毎年恒例の花巡りが出来る様になった。花見山、各地の一本桜鶴ヶ城の桜、日中線のしだれ桜、観音寺川の桜、そして桜峠等々。四十五日のうち二十日間出かけて桜を満喫できた。だからこそ春が終わってしまう事がとても淋しかった。

でも夏になる頃、それまで休んでいた「はるかぜ」コーラスに再び参加させていただいた。皆さんと声を合わせ素敵な曲を歌う喜びをまた味わう事ができ生活に張りが戻ってきた。これからも健康を気遣いながら、毎日を大切に丁寧に過ごしていきたい。

### カラパタール登頂とエベレストベースキャンプトレッキング

橋本　忠秋（85方部）

今までに「いつかはこの目で見てみたい。」と思ったことがいくつもあった。その一つ一つに挑戦しようと2021年から実行に移している。体調や家族の状況などから優先順位を決めた。先ず「日本一周」。自前の改装軽バン3か月の一人旅（達成済み）。2022年は表題通り5545m峰登頂であり、さらに世界最高峰のエベレストに挑む者たちがベースキャンプを置くその場所をこの目で見ることである。出発前の約4か月間、負荷を増しながら計画的に実践トレーニングを積んだ。高所対応訓練を低酸素室で4000mから500m刻みに6000mまで5回行うなど高山病のリスクを下げ自信を持って参加できる心身になるまで鍛えた。厳しいものはあったが全てをなし終えネパールに向かった。




最奥地ベースキャンプまでの往復は120km超。13日間ほとんど毎日きつかった。仰ぎ見れば真っ青な空。そして真っ白な雪を湛え四方に聳え立つ山群。深い谷にすれ違うのがやっとの長い吊り橋と氷雪が解けた豊かな水の流れ。荷を運ぶロバや馬、ヤクやゾッキョ。そして人々。大自然が飛びっきり美しい。生涯忘れられない。来年は三つ目を行動に移す。これができるのも妻のおかげ。心から感謝している。

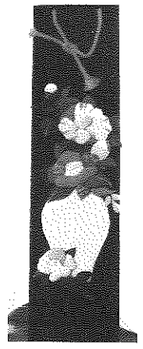
## 会員の作品

### 久留米押し絵

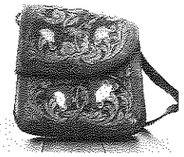
松崎　陽子（74方部）

九州の久留米から桑野開拓に入った武士の奥方が内職として製作したのが始まりで現在に到っている。

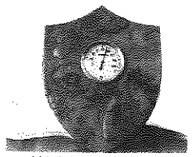
講習会の期間中に作品が仕上がらず久留米公民館のクラブに誘われて現在に到っている。優しく親切な皆さんの指導で楽しく活動している。皮革クラブも作品がなかなか出来上がらないが休まずに続けている。



〈久留米押し絵の作品〉



〈革製のバッグ〉



〈革製の温度計〉

### お悔やみ申し上げます

（令和4年8月～5年2月）

遠藤　寛様　柴田勇四郎様
金田　多恵様　家久来　浩様
渡部恵美子様　難波　継男様
鈴木　弘様　家久来庄吉様

心よりご冥福をお祈り申し上げます

### 編集後記

本紙「生きがいを求めて」は、その人の生き方に、挑む力と知恵が熱く伝わってくる。

人生百年時代。人生を前向きに捉え、老いを「ピョン」「ピョン」と乗り越えて福をもたらす「兎」年でありたい。

**広報委員**

・鷲田　洋　・渡辺　和宜
・佐藤　ノブ子　・齋藤　榮子
・大越　清美　・武田　修一